

『PRTR大賞2005』 選考結果

主催：(社)環境情報科学センター

後援：(社)日本化学会、(社)日本水環境学会、(社)大気環境学会、(財)世界自然保護基金ジャパン、(株)化学工業日報社、日経エコロジー、日経BP環境経営フォーラム (順不同)

『PRTR大賞』は、化学物質管理とリスクコミュニケーションを積極的に推進している企業や事業所を顕彰するため、社団法人環境情報科学センターが創設した表彰制度です。第2回の開催となった今年度は、計11件の応募をいただきました。選考委員による第1次審査(書類審査)、第2次審査(ヒアリング・現地調査)、さらに会場審査員と選考委員の投票による大賞選考会を行った結果、PRTR大賞1件、PRTR優秀賞(審査員特別賞)2件、PRTR優秀賞4件、PRTR奨励賞3件、特別賞1件が決定しました。

〔PRTR大賞2005選考委員〕

委員長 安井 至(国際連合大学)

委員 有田芳子(主婦連合会)、織田島修(化学工業日報社)

亀屋隆志(横浜国立大学大学院)、北野 大(淑徳大学国際コミュニケーション学部)

神保重紀(日経エコロジー)、中地重晴(環境監視研究所)

福井弘道(慶應義塾大学総合政策学部)、村田幸雄(WWFジャパン)

〔選考結果〕

PRTR大賞

シャープ株式会社 LSI事業本部

PRTR優秀賞 審査員特別賞

日産車体株式会社 本社及び湘南工場

本田技研工業株式会社 埼玉製作所

PRTR優秀賞

ソニーイーエムシーエス株式会社 一宮テック

株式会社東芝セミコンダクター社 大分工場

東洋インキ製造株式会社

株式会社リコー 沼津事業所

PRTR奨励賞

旭硝子株式会社 化学品カンパニー

株式会社東芝 府中事業所

パナホーム株式会社 筑波工場

特別賞

株式会社 東芝研究開発センター

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

シャープ株式会社 LSI事業本部 「PRTR大賞2005」 受賞理由

化学物質管理について

シャープ本社及び各事業所の委員で構成される化学物質管理委員会で取り決められた基本方針に基づき、IC事業本部における化学物質管理の具体的な運用が認められました。新規薬品採用の可否等については、C-PA (Chemical Product Assessment) 制度に従って福山環境安全推進センターにおいて詳細な審査が行われています。排出量の多いフッ素や窒素については、排水処理技術を開発するなど環境負荷低減のために積極的な取組が行われている点や、化学物質管理に関わる社員が自ら学会等に参加し、国内外の最新情報の収集に努めるとともに、関連業界等へのはたらきかけをしている点が高く評価されました。

ただ、管理対象物質の選定の観点が法規制ベースのみであり、代替物質等のリスクについての検討が十分とはいえない点が少し気になるところです。

リスクコミュニケーションについて

ファミリーデーの開催や地域でのボランティア活動など、長年にわたり地元住民との地道な交流が継続されており、コミュニケーションの下地作りができている点が評価されました。住民の要望から始まったという「3者採水」も10年以上続いており、化学物質に関するコミュニケーションの貴重な場となっています。2005年7月には、自発的に「リスクコミュニケーション」を開催し、今後も年一回の頻度で行う予定であることについては特に高い評価を得ました。

一方、リスクコミュニケーションの参加者の募集方法がオープンな公募ではなかった点が今後の課題と思われます。今後は市民に広く開かれたリスクコミュニケーションの実施を期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

日産車体株式会社本社及び湘南工場「PRTR優秀賞審査員特別賞」受賞理由

化学物質管理について

工場が市街地に立地していることもあり、臭気・騒音対策をはじめ環境管理に積極的に取り組んでいます。化学物質管理については、塗料や塗布技術の変更、洗浄方法の見直しなどの、多方面から詳細なVOC対策が行われています。また、排出基準等が定められていない物質に対しても、具体的な削減目標を立て、その実績を客観的に評価している点が評価されました。ただ、リスク管理への対応として、新規原材料に関してはMSDS等で審査が行われていますが、現在の使用状況に伴う環境リスクの評価について、応募資料からは確認できませんでした。

リスクコミュニケーションについて

小学校の社会見学や一般市民が希望する工場見学を非常に多く受入れていることや、事業所における環境の取組を判りやすく解説する冊子を独自に作成し、コミュニケーションに役立てていることなどが評価されました。特に、神奈川県がリスクコミュニケーションモデル事業に参画し、環境対話集会を実施した経験があることが高く評価されました。今後も、この経験を活かして自発的なリスクコミュニケーションへの展開に取り組まれることを期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

本田技研工業株式会社 埼玉製作所 「PRTR優秀賞審査員特別賞」 受賞理由

化学物質管理について

グリーンファクトリー計画の中で「化学物質の削減」を明確に位置づけるとともに、削減手法、削減状況を細かく管理し、確実に化学物質の削減を実践している点が評価されました。

しかしながら、VOCsの排出量が多いことから、正確なリスク評価の実施とその結果の地域住民への公開が望まれます。

リスクコミュニケーションについて

かねてより、地域住民とのコミュニケーションを積極的に実施しているとともに、埼玉県モデル事業としてリスクコミュニケーションを実施し、またその結果を踏まえ更に発展させた地域懇談会の開催計画がある点を評価しました。

また、OBを活用した環境ボランティアが組織的に実践されている点も評価されました。今後は、完全にオープンなリスクコミュニケーションが開催されることが期待されます。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 ソニーイーエムシーエス株式会社 一宮テック 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

ソニー（株）が規定した枠組みに従い、具体的な削減対象物質・削減目標値を設定するなど堅実に化学物質管理に取り組まれていることを高く評価します。また、新規化学物質を使用する際は、独自に構築したデータベースを用いP D C Aに基づく社内検討をする仕組みも確認できました。

しかしながら、管理対象の化学物質の詳細な選定理由と、クラス分けの考え方を把握しておくことが望まれます。

リスクコミュニケーションについて

愛知県のモデル事業としてリスクコミュニケーションを実施し、その結果を踏まえて地域住民に自工場内の理解促進のための工場見学を推進し始めたこと、またサマーフェスティバルなどを実施し、積極的に地域住民の方とコミュニケーションを図られている点、並びに情報公開でソニー（株）のC S Rレポート・サイトレポート・W E B公開と、様々な媒体を通じて行われている点を高く評価します。

今後は、地域住民との情報交換の場において、化学物質による環境リスクの削減がテーマの一つとして取り上げられることを期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 株式会社 東芝 セミコンダクター社 大分工場「PRTR優秀賞」受賞理由

化学物質管理について

東芝全社方針に基づき自社における化学物質管理規程を設け、組織的に管理運用されていることが確認できました。農業振興地域という立地条件もあり、化学物質管理に早い時期から着手していることが高く評価されました。管理対象物質については、代替化・使用量削減・排水排気処理設備の設置など積極的な取組がみられました。

ただ、環境影響評価の実施は認められたものの、代替物質等のリスク評価は行われていないなど、法規制を中心とした管理対象物質の選定の考え方が少し気になるところです。

リスクコミュニケーションについて

自ら「環境コミュニケーション宣言」をし、開かれた工場を目指して小中学校への出前教育や河川清掃など積極的に地域貢献活動を実施している点が評価されました。特に、地元自治会への説明会の開催から発展した「大分環境展」の開催については、市民との環境コミュニケーションの自発的な実施として優れた取組と評価されました。

今後は、環境リスクについてもテーマのひとつとしたコミュニケーションの実施に向けて、社内外の交流を積極的に続けられることを期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 東洋インキ製造株式会社 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

化学物質管理の体制整備や管理規定に基づく組織的な運用が行われていることが確認できました。排出量の削減が難しい業種である中で、水性塗料への展開などの取組をすすめるため、また製品リスクの管理のために自ら試験を実施し有害性評価を行っている点が評価されました。

一方、化学物質管理の目標を達成するための具体的な計画や方策が不明瞭であったとの意見も出されました。

リスクコミュニケーションについて

化学物質に関する取組内容について環境報告書やサイトレポート等で公表するなど情報の公開に努めています。川越製造所のみでの取組ではありますが、様々な市民団体と複数回にわたってリスクコミュニケーションを行ったことが高く評価されました。

しかし、これまでに実施したリスクコミュニケーションはいずれもある程度背景知識のある層を対象としたもので、一般市民との直接的な対話を行う際にはどれくらい市民側の理解が得られるのかわからないという不安もあるとのことでした。モデル事業で得られた経験を活かし、他の事業所への展開や、一般市民に開かれたコミュニケーションの実施に向けた一層の取組を期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 株式会社リコー 沼津事業所「PRTR優秀賞」受賞理由

化学物質管理について

化学物質管理について、しっかりした管理体系及び管理の仕組みを構築されていることを高く評価します。また排出係数の設定などの独自の努力により、管理の評価基準を設けていることは、他社にみられない独自性のあるものと評価しました。また実施状況に関しても、アップデートな情報収集と対策が確実に実施できるように仕組みが作られていました。

しかし、管理対象化学物質について、法規制だけを根拠にするのではなく、また環境リスク評価などを実施されると良かったと思います。

リスクコミュニケーションについて

ボランティア活動を通じて、地域との協働を推進されていることを理解しました。またSSモニター制度の実施については評価するものがありますが、リスクコミュニケーションについての会社の取組姿勢が明確でないと思われます。

またPRTRデータについて、個別物質毎の情報が公表されていないように思われます。

今後、工場見学や市民祭りなどの機会を利用し、リスクコミュニケーションを推進されることを要望します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 旭硝子株式会社 化学品カンパニー 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

貴社は、新規化学物質の安全性評価のみならず、既存の化学物質についても安全性評価に取り組んでおり、リスクアセスメントを行った上で製造・使用されている点、更にPRTR対象物質の環境中への排出を削減するために、処理設備の増強に力を注がれている点などを高く評価します。

しかしながら、化学物質管理の全体像と具体的な取組、リスクアセスメントの実施方法やリスク評価の実施状況等について資料から確認することができませんでした。

リスクコミュニケーションについて

「レスポンシブルケア鹿島地区地域対話」や「地球温暖化対策実施企業見学親子ツアー」における工場見学など、地域住民の方を対象としたコミュニケーションを実施されている点は高く評価します。今後は、貴社単独でサイト周辺住民を対象に、化学物質によるリスクにも触れたコミュニケーションを実施し、それをグループ企業も含めたより多くの事業所に展開されることを期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰 株式会社東芝 府中事業所「PRTR奨励賞」受賞理由

化学物質管理について

東芝府中事業所環境保全基本方針に基づき環境保全体制を整備し、化学物質等の管理規程や新規原材料・薬品類の購入時の事前評価実施規程等に従って、化学物質の使用状況の把握や取扱物質の有害性情報の収集等が組織的に行われていることを評価します。また、環境保全推進計画の中では、化学物質使用量・排出量の削減目標が具体的に示されており、計画的な管理が行われています。

一方、リスク管理の実施については、法規制の該当の有無とMSDSのほかにもどのような評価が行われているのか、具体的な対応方法が資料から確認できませんでした。

リスクコミュニケーションについて

利害関係者とのコミュニケーション実施規定に基づき、コミュニケーションの実施体制が整備されています。また、府中市環境フォーラムや環境報告書を読む会等に参画したり、府中事業所環境パンフレットを作成したりするなど、市民との交流の場を積極的に取り組んでいることを評価します。今後は、これまでに培ってきた地域との関係を活かして、リスクコミュニケーションなど化学物質や環境に関するコミュニケーションの実施へとさらに発展されることを期待します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

パナホーム株式会社 筑波工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

松下電器グループのメンバーとして、しっかりした管理体系及び管理の仕組みを構築されていることを高く評価します。またファクターXなどの独自の努力により、管理の評価基準を設けていることは、他社にみられない独自性のあるものと評価しました。また実施状況に関しても確実に実施できるように仕組みが作られていました。

しかし、もともと貴社の取扱い化学物質は比較的少ないのですが、取扱量の全量が排出されている状況があり、それについてリスク評価がなされていないことが今後の課題との指摘がありました。また化学物質管理の基本が労働安全衛生への対応であり、環境汚染への対応でないことが気になりました。

リスクコミュニケーションについて

ボランティア活動を通じて、地域との協働を推進されていることを理解しました。

しかし化学物質管理と比較して、リスクコミュニケーションについての会社の取組姿勢が明確でないと思われます。

またPRTRデータに基づくリスクコミュニケーションが実施されていないように思われます。

今後、工場見学や市民祭りなどの機会を利用し、リスクコミュニケーションを推進されることを要望します。

第2回企業における化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

株式会社東芝 研究開発センター 「特別賞」 受賞理由

化学物質管理について

多種少量の化学物質を使用する研究所という特殊な環境の中で、全社標準の化学物質管理を行い、効率的な削減が実現されました。

ただ、排出量が少ないこともあり、化学物質管理における「環境リスク」の視点が希薄なように見受けられ、特に周辺地域に対するリスク評価は行われていないようでした。

リスクコミュニケーションについて

環境をテーマにしたセミナー（講師）を、学校、科学館来館者、地元自治体の集会等に提供したり、コミュニケーションを通じて得られたノウハウを他の事業所にも展開している点などが評価されました。特に、学校教育への参画を通じたユニークな切り口からのアプローチが高く評価されました。研究所あるいは東芝科学館を併設しているといった立地特性を活かした内容で、情報開示も十分に行われ、地域住民のみならず広範な人々の理解を得ることに成功している事例と言えます。ただ、リスクコミュニケーションの成果を事業活動に反映するループが見えない点が惜しまれました。

貴社は、研究開発センターということで、製品を生産している事業所とは少し事情が異なることもあり、P R T R大賞・P R T R優秀賞・P R T R奨励賞の枠組みで評価をすることが困難でした。しかしながら、環境教育に関する取組やコミュニケーションの推進における社会的貢献など、優れた実績をあげている点が高く評価されましたので、「特別賞」という新たな賞を設けることとなりました。
